

パフォーミングアーツ・ウェーブ

3. 渋谷慶一郎プロデュース 『One (X) Cage → Today』公演

* ジョン・ケージ生誕 100 年記念コンサート

日 時: 2012年9月26日(水) 19 時

場 所: 愛知県芸術劇場小ホール

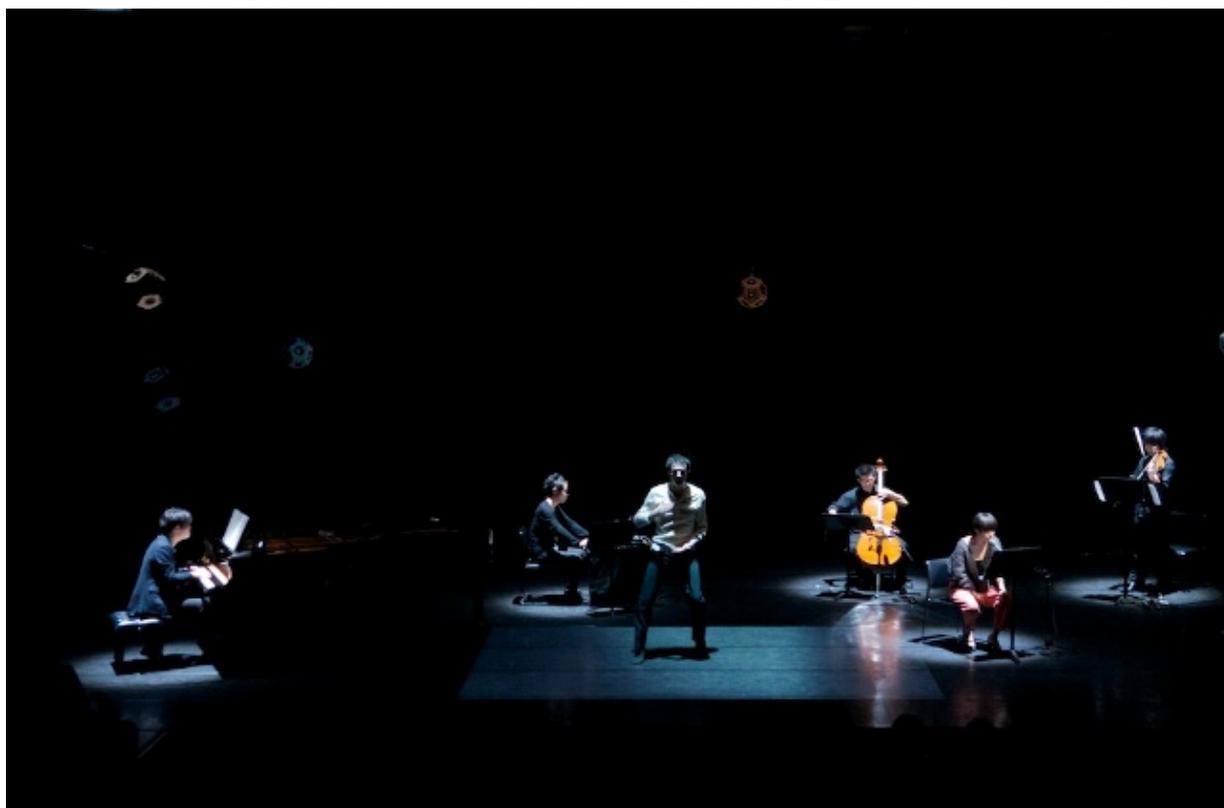
出演者等: チェロ: 多井智紀、ヴァイオリン: 辺見康孝、ピアノ: 渋谷慶一郎、ヴォイス: salyu、
不確定楽器: 飴屋法水、コンピュータ: evala、
ダンス: アレッシオ・シルベストリン、康本雅子

演奏曲目:

| | |
|---------------------------------------|--|
| One, One5 for Piano | One3 for unspecified (amplified ambient sound) |
| One6, One10 for Violin | One7 for unspecified (不確定楽器) |
| One8, One13 for Cello with curved bow | One11 for film |
| One12 for Voice | |

このコンサートは、作曲家・ピアニストである渋谷慶一郎氏に企画趣旨を伝えた上で、プロデュースをお願いした。渋谷氏は、ケージの作品のうち、晩年に作曲され、日本においては演奏されることが多くない、「ナンバーピース」と言われる作品群に着目し、そのうちソロで演奏・上演する作品ばかりを集め、(ケージの指示ではなく)新しい解釈として、時間をずらして重ねて演奏するというコンサートを企画した。

演奏者・上演者としてはダンサーも含めて 8 名ものアーティストが出演した。ケージ作品の演奏経験が豊富な音楽家だけでなく、初めて取り組むミュージシャンやダンサーなど、多様な音楽ジャンルの演奏家やダンサーが出演するということで、現代音楽の愛好家だけではなく、多様な嗜好・年齢の鑑賞者から着目され、チケットは早々と完売となった。観客は、東海地域だけでなく、東京・大阪からも集まった。コンサートの音響は、地元・名古屋で活躍する音響デザイナーを中心に、多方向型の八角形型スピーカーを会場全体につり下げるなど、特別なセッティングにより行われた。公演は、緊張感が高く、素晴らしい公演となった。



撮影: 羽鳥直志

*** 関連事業：連続講座「ケージを知る」**

*** ジョン・ケージ生誕 100 年記念／愛知芸大芸術講座**

| タイトル | 月 日 | 講 師 等 |
|---|------------------------|--|
| Vol. 1 体感！ジョン・ケージ | 2012 年 11 月 17 日（土） | 講師：久留智之（作曲家、愛知県立芸術大学作曲学科教授） ファシリテーター：愛知県立芸術大学作曲専攻学生 |
| Vol. 2 レクチャー&コンサート 「クレド・イン・アス」 徹底解剖 | 2012 年 12 月 9 日（日） | 講師：山本裕之（作曲家、愛知県立芸術大学准教授）、 深町浩司（打楽器奏者、愛知県立芸術大学准教授） 〈演奏〉 打 楽 器：深町浩司、陣内達（愛知県立芸術大学音楽学部管打楽器コース3年） ピ ア ノ：井上陽葉（〃作曲コース4年） フォノグラム：野崎貴広（〃作曲コース4年） アシスタント：芳賀傑（〃作曲コース2年） |
| Vol. 3 プリペアド・ピアノ ワーク ショップとコンサート「ソナ タとインターリュード」 | 2013 年 1 月 12 日（土） | 講師・演奏：中川賢一（ピアニスト） |

場所：すべて中リハーサル室

| | | |
|-------|----------------|-------|
| 受講者数： | Vol. 1 | 27 名 |
| | Vol. 2 | 39 名 |
| | Vol. 3 ワークショップ | 29 名 |
| | コンサート | 55 名 |
| | 合 計 | 150 名 |

愛知県立芸術大学との連携を得て開催した関連レクチャー&ワークショップ。ケージの作品について、1回のワークショップやレクチャーで1~2曲だけに集中して取り上げ、詳しく解説したり、受講者が実際に演奏に参加することで、体験してもらった。

ワークショップが中心となるため、1回当たりの受講者数は多くなかったが、どの回も充実した内容で、コンサートで演奏を聴くだけでは分からない、作曲構造や楽譜の読み方など、詳細を知ることができ、非常に好評であった。

《Vol.1 体感！ジョン・ケージ》



《Vol. 2 「クレド・イン・アス」徹底解剖》



《Vol. 3 プリペアド・ピアノ ワークショップとコンサート》

